

インクルーシブなまちづくり in 小川町

- 障害者と高校生の視点から -

泉湧太(自然環境学専攻M1) 鷲谷大輔(国際協力学専攻D1) 百瀬 晴菜(社会文化環境学専攻M1)

提案の概要

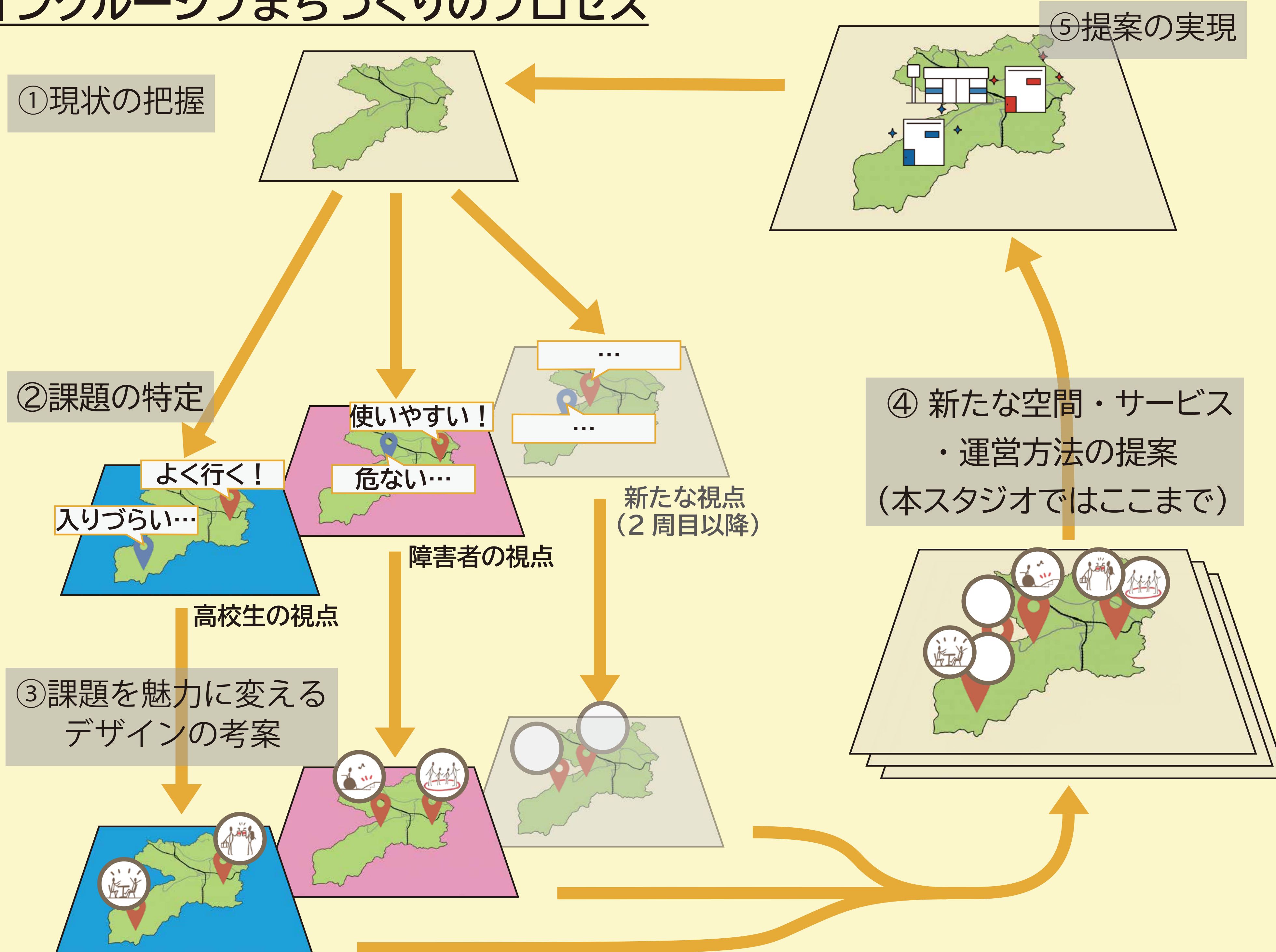
インクルーシブ社会：あらゆる属性や特性のある人々が誰も排除されない社会

我々は小川町にある「もの」ではなく小川町の「ひと」に着目した。目指すのは、従来のまちづくりに参加する機会がなく、また焦点が当たりづらい人の立場に立つことで、まちに必要なものを見つけ出すことである。

今回は障害者と高校生を対象とし、彼らから見る小川町や彼らが小川町に求めるものを拾い上げ、それをもとに我々は提案を行った。

この取り組みが子ども、高齢者、長年この町に住む人、移住者…と様々な属性の人に対して行われることで、誰もが住みやすい小川町 = インクルーシブな小川町の実現が期待される。

インクルーシブまちづくりのプロセス



小川町の障害者

我々が目指すのは、誰もが主役になれる小川町。

障害の有無に関係なく、すべての人が公平に暮らせるインクルーシブな未来を描いていく。

障害者の声と4つのバリア



バリアフリー整備



障害者グループの活動促進



利用者特性への配慮
支援体制の強化



交流の場の設置

